

# 施策評価シート

評価年度	平成24年度	事業実施年度	平成23年度	施策主管次長名	健康福祉部次長 伊藤 欽治
施策番号	70	施策名	地域で青少年を支えるまち		
関係課名	子育て支援課、教育行政課				

## 1. 施策の概要

施策の目的	対象	児童・青少年・市民	対象指標名		単位	H22実績	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
			6歳から18歳の人口		人	9,831	9,856	9,805	9,934	10,060	10,438
			人口		人	58,216	58,762	60,600	61,400	62,500	63,700
			子ども会加入児童		人	4,067	3,990	3,743	3,700	3,700	3,700
意図	心身ともに健全に成長してもらう				成果指標名	青少年補導員月間巡回数					
					成果指標名	心の電話相談年間件数					
					成果指標名	成人式の出席率					
					成果指標名	子ども会の加入率					

## 2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	青少年補導員月間巡回数	回	4	4	4	4	4	4	4
	指標設定の考え方と把握方法 非行防止を目指した取組みとして設定し、毎週定期的に巡回する報告書により把握								
指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	心の電話相談年間件数	件	78	77	69	77	77	77	77
	指標設定の考え方と把握方法 青少年が心身ともに健やかに育っているかとして設定し、相談記録で把握								
指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	成人式の出席率	%	77	73	78	73	73	73	73
	指標設定の考え方と把握方法 20歳の方が、大人の理解・決意を持っているかとして設定し、出席者名簿で把握								
指標	成果指標名	単位	H22実績	H23計画	H23実績	H24計画	H25見込	H26見込	H27見込
	子ども会の加入率	%	84	84	84	84	84	84	84
	指標設定の考え方と把握方法 児童が自主性と社会性を高めるために子ども会に加入しているかとして設定し、補助金実績で把握								

## 3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の効果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	・青少年の健全な育成に向けて基本的な役割を担うのは、保護者、家庭であり、地域は青少年の自立を育む交流の機会を提供し、地域ぐるみで健全育成に取り組む。			
	行政	・豊かな心とたくましさを育む教育活動を推進し、地区青少年健全育成支援団体を支援する。 ・青少年の非行防止として、補導員活動の充実、悩みに応ずる心の電話相談などの充実させる。			
達成度評価	成果目標(指標計画値)と現状との比較	・青少年補導員の巡回日数は、計画どおり毎月4日の割合で巡回。心の電話相談は、毎週土曜日に実施し、計画よりも年間8件の相談が減少した。 ・成人式は、対象者621人のうち485人が出席し出席率78%であった。			
	近隣との比較	・市町村の青少年補導員の設置は近隣では豊田市、刈谷市と本市のみ、豊明市、日進市、東郷町は警察署からの委嘱のみである。豊田市の月巡回数は3回、刈谷市は0.3回。本市は月4回で、巡回数は多い。 ・心の電話相談件数は、刈谷市61件(0.04%)。豊田市は対面相談。豊明市、日進市、東郷町は、児童家庭相談として対応しており比較ができない。本市は69件/人口58,762で、人口当たりの相談率は0.12%と高い。 ・成人式の出席率は、豊田市70.9%、刈谷市67.5%、豊明市77.3%、日進市66.6%、東郷町73.8%で、本市は78.1%と高い数値となっている。・子ども会の加入率は、豊田市86.3%、刈谷市52.1%、豊明市75.6%、日進市54.7%、東郷町71.8%で、本市は豊田市に次いで84.0%であった。			
	過去3年間の実績との比較	・青少年補導員の月巡回数は、過去3年と同様に月4日で実施。・心の電話相談件数は、20年度105件、21年度77件、22年度78件、23年度69件で、ほぼ例年の実績であった。 ・成人式の出席率は、20年71%、21年72%、22年77%から23年度は78%と大幅に伸びた。			
【優先度評価】 成果向上の余地、市長マニフェストとの結びつき、緊急度など	・青少年健全育成は、市民との協働が不可欠で「市青少年健全育成推進協議会」を母体(基幹)として、連携をとりながら地区の「健全育成推進協議会」・「ジュニアクラブ」が地域ぐるみ活動として展開しているが、今後は新たな企業の参画など、一層の市民・団体・企業が一体となった「健全育成推進協議会」の活動が望まれる。 ・非行防止をめざす青少年補導活動の向上として、学校、商業施設等の関係者と連携し、地域全体で支えあう体制づくりが急務である。				
【総合評価】 今後の方向性、課題解決のための事務事業の見直しなど	・青少年の非行防止は長期的な展開が重要で、豊田少年補導委員会との連携強化を図りながら、補導員による定期巡回の継続実施、補導員体制の強化(学校・商業施設関係者等の協働)に努める。 ・青少年の健全な成長を願い「市青少年健全育成推進協議会」を母体として、地域が取組む体制や連携を図り、市・地域が一体となった青少年健全育成事業の継続的な活動が必要である。				
市民意識	重要度	高い	満足度	高い	平成23年度市民アンケート調査による